

平成29年度

# 事業報告

平成29年4月1日～平成30年3月31日

公益財団法人 才能開発教育研究財団

昭和 42 年の設立以来「子どもの才能開発」を柱として様々な事業を行ってきた才能開発教育研究財団は、平成 23 年 4 月 1 日から新制度のもとでの公益財団法人として、新たな歩みを開始している。

平成 29 年度は、財団運営の拡大と自立に向けて各事業の基盤の整備と見直しを行い、公益法人としての公益性の確保、事業内容の告知、事業協力者の理解を得ること、そして財団従事者の貢献意識と責任感の自覚、一体感を認識して事業を進めた。

各個別事業の実施概要は次のとおりである。

## 1 講演研修事業（公1）

### (1) IMETS (アイメッツ) フォーラムの開催

全国規模の講演研修会「第 44 回 教育工学研修中央セミナー IMETS フォーラム 2017」を開催した。

- ◆ 主題： **新教科(道徳・英語)とプログラミング教育に向けた授業づくりと ICT 活用の工夫**
- ◆ 主催： 当財団 教育工学研究協議会 IMETS フォーラム 2017 実行委員会
- ◆ 共催： 一般社団法人 日本教育情報化振興会 (JAPET & CEC)
- ◆ 後援： 文部科学省、全国教育研究所連盟、東京都教育委員会、港区教育委員会、民間教育研究所連盟、日本教育工学会、日本教育工学協会、NPO 法人 日本教育再興連盟
- ◆ 期間： 平成 29 年 7 月 27 日(木)・28 日(金)
- ◆ 会場： 東京都港区立高松中学校
- ◆ 参加者： 全国小中学校教員、幼稚園教員および教育関係者等 のべ 411 名
- ◆ 内容・総括： [講演・事例発表・ワークショップ]

第 44 回は、「新教科(道徳・英語)とプログラミング教育に向けた授業づくりと ICT 活用の工夫」を研修主題として 2 日間のプログラムを構成した。受講生からは「今日的な教育課題についてより専門的な先生方から教えていただいた」、「次回の新学習指導要領にそった新しい教科、道徳、外国語、プログラミング等内容はとても良かったと思った」等の感想があった。例年好評なワークショップは、2 日間それぞれ、7 講座開設した。

### (2) 教育委員会の教員研修支援

教育工学研究協議会は、大田区教育委員会の教員研修支援事業を行った。初任者研修 10 回開催のうち、4 講座の講習を受け持ち開催した。さらに前項で述べた IMETS フォーラム指定研修の場として提供し、197 名が受講した。同じく港区でも、76 名が受講した。

### (3) 教員免許状更新講習

教員免許状更新講習について、当財団は平成 21 年度から講習の開設者として文部科学省の認

定を受け実施している。

<対面講習>

29年度は、必修(6時間)・選択必修(6時間)・選択(6時間)を、東京・大阪・仙台の会場で全40回開催し、合計1359名が受講、前年より436名大幅に増加した。

<eラーニング講習>

29年度は、受講期間を「平成29年4月1日～平成30年3月31日」とし、初の年間を通じた開設となった。28年度は必修:1講習、選択必修:2講習、選択:7講習の合計10講習、延べ1,945名の受講数であったが、29年度は新たに選択3講習を増設し、合計13講習、延べ8,015名の受講数となり、前年度より約4倍受講生が増加した。

年間の運営となったことで、更新申請期限間際である年末年始に受講が集中することが判明したため、当該時期の迅速な履修認定、および証明書発行が今後の課題である。また、eラーニング講習は様々な学校種の教員が受講をするため、対象学校種に応じた講習内容の充実が求められる。今後も受講生の多様なニーズに対応し、引き続き当財団の大きな公益事業の柱となるように尽力したい。

#### (4)教育工学研究協議会活動

当協議会は、吉崎静夫日本女子大学教授を会長とし、当財団が事務局となり全国の小中学校教員をはじめ教育関係者による研究会組織である。主な活動は、協議会が主催する「教育工学研修中央セミナー IMETS フォーラム」であり、教育現場において関心の高いテーマの設定や実現可能な研究方法について協議会役員が検討している。

## 2 養成研修事業 (公2)

### (1)モンテッソーリ教師養成通信教育講座

当財団組織の日本モンテッソーリ教育総合研究所 教師養成センターが運営している通信教育講座を、2年課程の3歳～6歳コースと1年課程の0歳～3歳コースについて継続開講した。

平成29年度受講生数、3歳～6歳コース

40期【1年次】39期【2年次】合わせ 合計182名(前年162名)

平成29年度受講生数、0歳～3歳コース

10期生が71名(前年67名)であった。

受講生の大多数は、幼稚園・保育園に勤務する保育者だが、園の設置者、子育て中の親、幼児教育などの教室関係者も近年増えつつある。

夏期スクーリングは東京の五反田 TOC ビルにおいて教室授業形態の理論講義と、教材・教具を用いた少人数制の実技指導を行った。3歳～6歳コース累計は、入学者4,272名、卒業生3,361名、資格取得者2,210名となった。

また0歳～3歳コース累計は、入学者613名、卒業生563名、資格取得者438名となった。

平成29年度で会員管理に係わるシステムの改修及び講座内容の見直しを進め、平成30年度よりリニューアルスタート。

新コース【インターナショナル資格取得コース】は、開設準備を進めてきたが、AMS(American Montessori Society)・MACTE(Montessori Accreditation Council for Teacher Education)認定取得・開設準備手続きに時間を要し、平成31年度の開講を目指し、手続きおよびコース開講の環境整備を引き続き進めていくこととする。

## (2) 附属『子どもの家』の運営

モンテッソーリ教育法の実践的研究と、その成果を通信教育や実践研修室等に反映させること、さらには全国のモンテッソーリ教育を行う幼稚園、保育園、子どもの家のモデルとなることを目的として当研究所の幼児教育施設である附属『子どもの家』を運営しており、同教育法に関心を持つ多くの見学者を受け入れている。

平成29年度末の在園児数は、年長(卒園)児8名、年中児6名、年少児10名、年少少児10名、合計34名(前年36名)であった。また卒園児の継続的受け入れを可能にしている小学部も、平成29年度末の在籍児童数は16名(前年20名)であった。

年間21回(前年23回)開催した「たんぼぼクラス(1歳児コース)」には、延べ116組(前年140組)の親子が参加、附属『子どもの家』入園への導線作りと同時に、現役子育て世代へモンテッソーリ教育を伝える一助となった。

## (3) モンテッソーリ教育「実践研修室」

通信教育による教師養成講座とは別に、「モンテッソーリ教育法」の入門講座としての「実践研修室」を、経験豊富な委嘱研究員を講師として実施している。

平成29年度の開催回数は合計31回(前年32回)、受講者は延べ1017名(前年844名)であった。東京以外に、10月宮城で94名、2月沖縄で128名の実施。普及活動の活性化を図った。

# 3 才能開発コンテスト事業 (公3)

## (1) 第54回全国児童才能開発コンテスト(オコン)

「オコン」29年度も、全国の児童を対象として「第54回全国児童才能開発コンテスト」を主催し、作文・図画・科学(生活科・理科)の3部門において創作品や研究作品の募集を行った。

◆ 後援 : 文部科学省、全国都道府県教育長協議会、全国都道府県教育委員協議会、全国連  
合小学校長会、公益社団法人日本 PTA 全国協議会

◆ 応募・入賞 : 作文／応募校 528 校、応募点数 15,510 点、入賞点数 1,250 点  
図画／応募校 565 校、応募点数 18,865 点、入賞点数 1,280 点  
科学／応募点数 135 点、入賞点数 135 点

(科学作品は 35 都府県教育委員会、および関係団体の推薦作品)

◆ 賞 : 文部科学大臣賞	各部門低学年高学年 各 1 名 計 6 名
全国都道府県教育委員協議会会長賞	科学部門 各学年 1 名 計 6 名
全国都道府県教育長協議会会長賞	各部門 各学年 1 名 計 18 名
全国連合小学校長会会長賞	各部門 各学年 1 名 計 18 名
日本 PTA 全国協議会会長賞	各部門 各学年 1 名 計 18 名
学研賞	各部門 各学年 1 名 計 18 名
菅公賞	各部門 各学年 1 名 計 18 名
中央審査会委員長賞	科学部門 各学年 1 名 計 6 名
才能開発教育研究財団理事長賞	各部門 各学年 1 名 計 18 名

上記、各上位受賞者在籍学校には、学校奨励賞として賞状、盾、副賞を贈呈  
他 財団奨励賞、財団科学賞、佳作賞として表彰状、副賞を贈呈

部門ごとに時間をかけての一次審査、(作文部門は二次審査)、本審査を行い全受賞者が決定した。その結果を受け、文部科学大臣賞受賞者を中心に該当地区において開催している表彰式を、2 月 24 日から 3 月 10 日にかけて、6 か所で行った。本年度もたくさんの報道関係より表彰式の取材があった。

## (2)「オコン」の意義、告知、協賛

当コンテストの子どもに対する直接の目的は、学校教育の趣旨に沿って児童に作品の創作や理科研究を奨励し、個々の児童の才能を伸ばし、「豊かな感性・情操」を養うとともに、学習意欲の向上を図ることにある。このコンテストに入賞したことによって児童が大きな自信を持ち、その後の学習や行動が積極的、意欲的になって意識向上に結びついたとして、応募実績のある小学校の教育現場からは強い支持と協力を得ている。

また、文部科学省をはじめ、教育行政関係からも毎年高い評価とともに感謝のことばをいただいている。これも 54 年にわたる「オコン」の活動実績に対する教育行政の信頼の表れと感じる。

今後も継続して協賛募集の活動を行うと共に、このコンテスト事業を通じて、学校・教育行政・教育施設等での協力体制の強化に務める。

## 4 管理部門

### (1) 事務局業務、事業活動支援業務

公益事業継続のための財務基盤拡充は、適正な資産運用を行い為替の変動があったものの計画を上回る収入を得ることができた。内部組織、特に財団内の業務効率化を図り今後の財団運営の環境の整備を行った。

事業としては、28年度から手がけた『教員免許状更新 eラーニング講習』が好調に推移し、事業の安定化に貢献する事ができた。モンテッソーリ教師養成通信教育講座の会員管理システムを刷新し、セキュリティの強化と受講者に対する学びの改善を図った。

事業部門間の連携強化を行うと共に、公益事業の推進を図るという目的にかなう種々の連携活動に関しては、諸団体・講師陣との連携を行い、関係の強化を各事業部門との間で行った。

また、決算、事業報告、予算、事業計画、理事会、評議員会等の関連する報告や届け等を行った。

### (2) 理事会・評議員会等

第20回理事会 平成29年6月1日 出席理事10名、欠席3名、出席監事2名

決議事項 平成28年度事業報告及び付属明細書、平成28年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及び付属明細書並びに財産目録、保有する株式及び出資にかかる議決権行使、定時評議委員会の日時及び場所並びに目的である事項等の承認。

報告事項 第19回理事会以降の職務の執行の状況

第9回評議員会 平成29年6月20日 出席評議員10名、欠席6名、出席理事2名、出席監事1名

報告事項 平成28年度事業報告

決議事項 平成27年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及び付属明細書並びに財産目録、評議員1名選任、理事12名選任

特別決議事項 定款変更

報告事項 第8回評議員会以降の職務の執行の状況

第21回理事会 平成29年6月20日 決議の省略による方法にて開催

決議事項 代表理事及び業務執行理事の選定

第22回理事会 平成30年3月14日 出席理事10名、欠席2名、出席監事2名

決議事項 平成30年度事業計画書、収支予算書、特定費用準備資産積み増し、財団重要人事等の承認、

## 第 20 回理事会以降の職務の執行の状況

### ※附属明細書について

当事業報告には、法に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成 30 年 6 月

公益財団法人 才能開発教育研究財団